

## 【リレートーク②】パネリスト：佐藤 真美氏

よろしくお願いします。ちょっとだけ自己紹介させてください。私は千葉県出身で、今さいたま市南区鹿手袋というちょっと変わった名前の場所に住んでいます。今年年女で、本職はグラフィックデザインの仕事をしています。趣味はバンド活動とコーヒーで、最近ちょっとだけDJをはじめました。本職のデザインの方は紙媒体のチラシ、企業さんのチラシとかこんなことをやっています。今から自分が住んでいる地域でやっていることをご紹介します。『鹿手一畳マーケット』っていう名前を出して頂いてるんですけども、いろいろつながっているのでご紹介させてください。1つ目は、「鹿手袋シカテカフェ」というのをやっていて、近所の公民館ではなくて、地域の集会所をお借りして、コーヒーを淹れてお茶会をしています。2015年から月1回、すでに46回以上やっています。ただ私がコーヒーを淹れておしゃべりをしているだけなんですけど、近所の人たちが集まったり、同じようなことをやりたい人たちが遊びに来てくれていて地域サロンとして、地域福祉のひとつとして登録されています。そして2つ目『鹿手一畳マーケット』。ちょっと動画を観ながら説明します。基本的にはフリーマーケットなのですが、



区画を畳に例えて、鹿手一畳マーケットと名付けました。これはドローンが規制前だったので、ご厚意で撮っていただいたんですけど、場所は鹿手袋の住宅街にある巨大な物流倉庫です。大きさが大体300畳くらいあります。これも2015年から年1回5月末に開催しています。扱っている商品は、家庭の不用品とか、手作りの小物、リラクゼーション、ネイルサロンが出てきましたけれども、それからワークショップ、など約80店舗くらいが出店しています。参加者は老若男女問わず毎回1000名くらい参加があって、子どもたちが店

長をつとめるブースなどもあります。これ去年の様子です。あと特徴としては、子どもやご家族だけじゃなくて、高齢者のデイサービスを利用している方々も出店していて、通路をしっかりとあけて、車いすでも通れるように3m位とっているんですね。普段車いすに乗っている方々も、この日は嬉しくて車いすから立って歩き出すっていうミラクルなこともおこったりしています。それからイベントのあとは鹿手袋会館という集会所の2階を使ってデ



ィスコやったりしてます。それから3つめ。2016年に『住み開きの家佐藤さんち』を開始しました。今までいろんな場所を借りてやってっぱり自分たちの拠点がほしいなと思った。写真はちょっと見づらいかもしますが青い屋根がありますが、佐藤さんち住みながらやっている所は、シカテ一畳がたまたま見つかってお借りしていまシカテカフェにもとても近い位置にあって、分くらいの距離の中に住んでいます。住たい何なのかといいますと、文字通り自

も都内ですし、それから友だちも都内にいて、だけれども近所で頼れる友だち、知人がいないということに気づきました。自分が住む地域のことを何も知らない。ヤバいなと思っていたんですが、でも何からその不安を取り除いたりしたらよいのか、友だちを作るにはどうしたらいいのだろうとかちょっと悩んでいたのですが、ただ私にはデザイン制作の能力と好奇心、それからフットワークの軽さだけはあるぞということで、そこを使ってやっついこうということで、デザインの力と行動力で、まず自分の課題解決。友だちがいない、知人がいないことを解決しよう。それで、その表現をしたのが3つの活動、カフェとフリマと住み開き。これはたまたまそれであっただけであって、当時から自治会とかには入ってはいましたが、ただ自治会費が家賃から引き落とされていた状況で、自分が参加するところにはいかなかった。もしここが楽しかったり、自分が行って満足するものであれば、自分がこういう風に活動はしていなかったと思うのですが、この3つでやっついこうと思いました。で、ここにたどりつくまで紆余曲折ありましたが、これはまたお話したいと思いま

す。地域で活動するうえで大切にしていることをお話したいと思えます。まず1つ目は自分が楽しむということ。そして2つ目はギブアンドテイク。例えばシカテ一畳マーケットの会場として先ほどの倉庫を借りるんですね。さすがにお礼なしでは悪いなと思うんですがお金がない。会社の方に「困っていることはないですか。」と聞いたら、「求人困っている。しかも地域の人から採用したい。」ということだったので、そこを私がお手伝いしてチラシとか、SNSなどで求人のお手伝いをして、実際に毎年採用をされています。それから、先人が今まで大事に作ってきた地域で共存して

いくことを大事にしないといけないとなんでもなくて（笑）交通指導員の一式って指導したりとか、民生委員…たぶんないかな。そういうことも積極的にやっ



ったことが見えてきました。行政の方にやっついられるんですか、早くやめられるんですが、私としてはむしろ知るこ

ざいますみたいな。地域との距離がぐっと近くなるのでよいとは思っているんですけど。やりたいこと、困っていること、本質に気づいて助け合える繋がりが大事だと思っています。ずっと活動を続けていたら友達がいっぱいできました。毎回1000人位来るイベントなので、もう4回やったら4000人位とはお会いしているんですけど、そしてそろそろさっきの原点である3.11、本気で防災をやろうと。たくさんの人との出会いがあったので、その中から仲間を見つけ出して一緒にやっ

ていこうと思って立ち上げました。その前に、そんなある日サラリーマンの夫がこう言いました。「安心して帰宅困難者になりたい」。私の夫は都内まで仕事に出ています。この言葉を突然言われてどういうことかと思ったのですが、住んでいる地域から離れている時に万が一が起きてしまった時、大切な家族と離れていても地域に頼れる人がいるから大丈夫と思えて、自分の身の安全を確保してから落ち着いて家族のもとへ帰ろうと思える街になってほしいということでした。防災の意識をもったコミュニティの確立ということはこの時思いました。それにはまず一人ひとりが防災の意識を持つことから始めようと、さっきの一番最初にでてきた、しかも楽しくということで、次4つ目やっていること。2017年11月から防災を楽しく前向きに日常にということで『浦和防祭連合』を立ち上げました。防災の災の字がお祭りなんですけども、誤植でもなんでもありません。たまに怒られたりするんですけど、前80歳位のおじいちゃんにメチャ怒られました。はい。防災の災の字はお祭りにしてポジティブに。お祭りは昔のことを今に伝えて未来を作っていくという大事な行事でもあります。そして有事の際は地域を飛び越えて助け合える仲間を募っ

っています。立ち上げメンバーは3名。真ん中は料理人の鈴木けんじ。そして右が防災士で都内で防災の共通点何らかすけど、当時働いていた職場で、震災が起こったとき上司が先に逃げたことなど、何かあったときに



仕事をしている葛西由香、そして私です。3人が実はありまして、被災したショックで震災後のアクションを起こしているということなんで実は一番右の葛西さんは、今は独立していますが、

20代から40代の男女で、様々な職種の方が70名ほど今います。具体的にどんなことを活動としてやっているかという、主に避難所運営ゲームというゲームが開発されていますが、そのゲームをいろんな場所でやったりとか、そのゲームをもとに、自分の特技を活かして、何かあったときに自分の特技が防災になるんじゃないかということで、防災をいかしたコミュニティマップづくり、それから非常食や保存食のアレンジの紹介。これはアルフ



ア米とってお袋を使った家庭カウントストアKおはよう日本」れませんでしたに仕掛けるのがす。そこで、公園

湯で戻すお米で作ったお寿司なんですけど、それから土嚢菜園。それから手ぬぐいを折るだけで作るポーチ。ディスプレイで防災企画コラボレーションしたりとか、8月末に「NHにもとりあげられて2日間の撮影のわりに5分しか放映さが…何度土手を歩いたか(笑)。そして今年の3月9日、次こちら別所沼公園というさいたま市で有名な公園があります史上初民間主導、地域と行政と協力して楽しい出店が約30団体。『別所沼公園防災ピクニック』というイベントを行います。これはどなたでも気軽に参加できるように、普通の防災のイメージとは違う人たちが出ます。コーヒー、狭山茶、すし、焼き菓子、…いろいろ出ているんですけど、今日のコーディネーターの関根さんもコーヒーとビールで出店していただきます。こうみるといったいどこが防災なの?と思うでしょ。ぜひ当日会場に確かめに来てください。ちなみに3月5日火曜日の19時からユーチューブに浦和防祭連合の特集と防災ピクニックのことが1時間もでますのでチェックしていただけたらと思います。それからあとひとつ。今年の鹿手一畳マーケットは大型リニューアルをする予定でして、断捨離をテーマに『鹿手断捨離ランド』として生まれ変わります。これからたぶんマーケットの話もでてくると思うのですが、普通のマーケットはちょっともう飽きちゃって、やっぱり思考を変えてどんどんやっていきたいなということと、最初はマーケット立ち上げたんですけど、別にマーケットを立ち上げたかったわけじゃなくて、私は地域の人と繋がりたいただけ、コミュニケーションを取りたいということが目的でしたので、そこをクローズアップしたイベントにしていきたいと思いますので、ぜひ皆さんご興味ありましたら、フェイスブック、ホームページ、鹿手一畳マーケットなどで発信していますのでぜひ来ていただけたらと思います。